

国立公文書館における情報発信（利用者とのコミュニケーション）の状況

- 国立公文書館では、ホームページやツイッターなどのインターネットによる情報発信を行うとともに、雑誌への寄稿により、公文書管理法の趣旨と国立公文書館の取組について発信。

（国立公文書館ホームページアドレス）

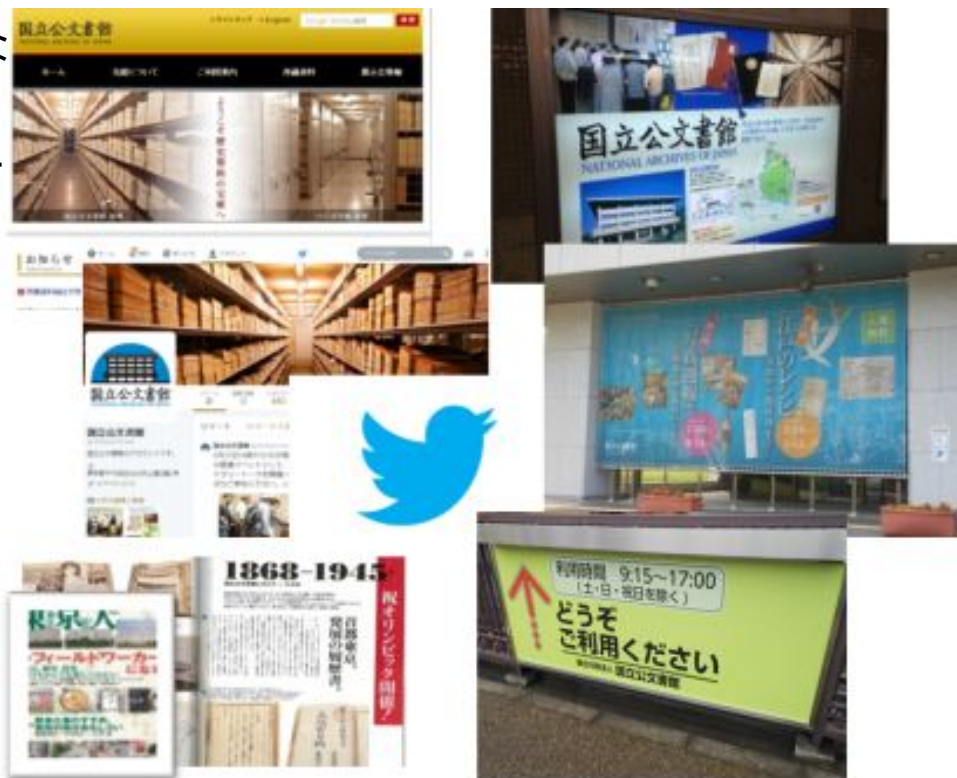
<http://www.archives.go.jp/>

（国立公文書館ツイッターアドレス）

<https://twitter.com/JPNatArchives>

- 地下鉄駅構内の電飾掲示板への掲出や、展示会におけるサインシート、門扉看板の設置により、国立公文書館を周知。

- 利用者とのコミュニケーションに基づく情報発信として、展示会開催中に講演会を実施。
（平成25年度：秋の特別展及び連続企画展第1、2回の計3回実施）



【今後の検討課題】

⇒館側からの情報発信だけでなく、外部研究者や教育者とともに研究・教育プログラムの検討や利用者との双方向によるコミュニケーションに基づき、情報発信機能を強化する必要。

○「OUR ARCHIVES - Our Voice. Our History. Our National Archives.」(2010年)



歴史家やアーキビスト、市民アーキビストが、他の研究者らとつながり、研究情報やリソースを共有する機会の提供することを目的としたサイト

- ・独立戦争や南北戦争といった歴史的な出来事、アメリカ国立公文書記録管理院の事業や所蔵資料に関する新規ページの作成、既存ページの更新
- ・オンラインカタログの記述の拡張
- ・他のリソースを構築するための情報の追加
- ・個々の研究で得られた有益な情報を蓄積する作業ノートとしての利用
- ・他の研究者との類似テーマや研究プロジェクトの共同

などが可能になる。

○「History Happens Here!」コンテスト(2010年)



ユーザーがオンラインで公開している過去の写真と、現在の写真を組合せて撮影し、Flickr(※)に投稿。

優秀作品20枚を、アメリカ国立公文書記録管理院館長らが選抜。

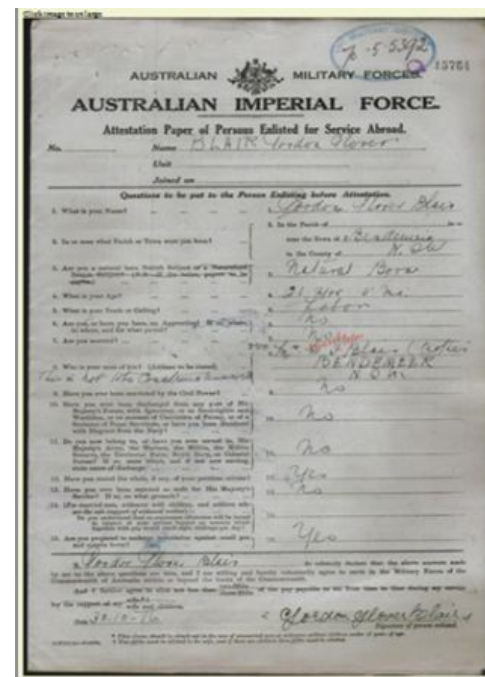
※Flickr : オンラインによるアルバムの共有ツール。
写真をアップロードしてウェブ上で閲覧が可能。



コンテストの受賞作品は冊子にして販売(\$12.95)

⇒利用者の参加とアメリカ国立公文書記録管理院の活動が相互に関係しながら展開

「Mapping our Anzacs」プロジェクト(2010年)



カラーデジタル画像で閲覧できる「Attestation paper」

同館が所蔵するオーストラリア軍(第1次世界大戦)への参加者375,971人の記録(入営証明書)を活用し、Anzacに参加した人物(兵士のほか、看護師や従軍記者、牧師などの軍属も含む)を、その出身地や志願場所に基ついてマッピング(その範囲はオーストラリア国内にとどまらない)。

①任意の人物を探すサービスのほか、②自身又はその家族が、写真やメモといった付加情報をデジタル・スクラップブックに登録・閲覧する機能、③オンラインでの「賛辞」を付記する機能が提供されている(②及び③については、利用規約に基づくサイトへの登録が必要)

⇒場所や空間を切り口に公文書館への新たなアクセス経路を構築しつつ、第1次世界大戦の記憶が地域社会の共同体としての意識へと醸成されることを目指したもの(「Backstory」及び同館のプレスリリースによる)

※Anzacs: 第1次世界大戦勃発後の1914年にイギリスの自治領であったオーストラリア及びニュージーランドの志願兵によって編成された軍団(Australian and New Zealand Army Corps)の略称(第2次世界大戦以降もオーストラリア及びニュージーランド両国の連合軍の略称として使用されている)。